



研究部会報告

● 意思決定法 ●

部会 URL : <http://sites.google.com/site/decisionorsj/>
・第42回

日 時 : 2017年8月31日(木) 16:00~18:00

場 所 : 日本大学校門会館303会議
(千代田区五番町2-6)

出席者 : 6名

テーマと講師、及び概要 :

- (1) 「授業評価アンケートにおけるAHPの活用」
大山口菜都美 (秀明大学)

大学における授業評価アンケートにAHPを導入することで、学生が授業に対し何を重要視するかを反映させた授業評価を目指す。実際に発表者の授業において行った、三つの評価基準に対して三角関を用いた三つ組比較を行う項目を追加したアンケートの分析結果を報告し、今度の改善案や注意点について様々な意見をいただいた。

- (2) 「支配代替案法における階層化の扱い」
大屋隆生 (国土館大学)

支配代替案法、多重支配代替案法の評価過程で表われる一対比較を1つの一対比較行列として表現した超一対比較行列を提案したが、評価基準が階層化されている場合も代表の評価基準を支配評価基準として用いることにより超一対比較行列を用いて計算できることを示した。

● 確率モデルとその応用 ●

・第23回

日 時 : 2017年9月23日(土) 13:00~14:20

場 所 : 神奈川大学横浜キャンパス3号館B-102番講堂
出席者 : 5名

テーマと講師、及び概要 :

- (1) 「順序距離空間における不動点定理と非線形境界値問題への適用と今後の展望」

渡辺俊一 (東京情報大学, 明治大学)

本講演では、順序をもつ距離空間における mixed monotone 写像の概念の拡張と新たに得られた不動点定理について成果が報告された。この不動点定理の応用として、elastic beam 方程式と呼ばれる4階の2点境界値問題の解の存在が得られることが述べられ、今後のさらなる展望についても議論がなされた。

● 数理的発想とその実践 ●

・第13回

日 時 : 2017年9月30日(土) 14:30~17:00

場 所 : 大学連携センター Fスクエア講義室707
(AOSSA 7階) (福井市手寄1-4-1)

出席者 : 9名

テーマと講師、及び概要 :

- (1) 「Do Tourists Have Love of Variety? Structural Estimation of Tourists' Destination Choice」
安達有祐 (名古屋大学大学院経済学研究科)

産業の集積が起こる過程を説明する理論が観光産業に適用できるかデータを使用して検証した。産業の集積が起こる要因の一つは、消費者が多様な種類の財の消費を好む性質(多様性への選好)を持つことである。本研究は、多様性への選好を観光客が持つという仮説を欧州のデータを用いて検証した。その結果、仮説が支持されることを確認した。

- (2) 「ライフサイクル思考に基づく環境教育プログラムの開発過程」

笠井利浩 (福井工業大学環境情報学部)

福井工業大学笠井研究室では、緑のカーテンと雨水利用を教材として用いたライフサイクル思考に基づく長時間体験型環境教育プログラムの開発と実践を行ってきた。これまで小学校および中学校で7年間に渡って実践を行ってきた環境教育プログラムの流れを紹介すると共に、実践過程で得られた環境教育の可能性と今後の課題について述べた。